

みる つくる
かたる

2003

VOL.30
NO.2 (通巻88号)

ART NEWS 千葉県立美術館

造形・デザイン教育の展開

—千葉大学 ひとつづくり・ものづくり130年—

県立美術館は、昭和49年の開館以来、「房総と近代美術」を基本テーマのひとつとして、千葉県という窓を通して美術の世界を考えるため、郷土の美術に関する調査と紹介に努めてきましたが、今回は、地元の国立大学・千葉大学を取り上げ、企画展「造形・デザイン教育の展開—千葉大学 ひとつづくり・ものづくり130年—」を開催します。

現在の千葉大学は、昭和24年当時、千葉県内にあった旧制国立諸学校を包括し、新製の国立総合大学として発足した大学ですが、優れた研究業績をあげ、多くの人材を各分野に送り出し、社会の進展に大きく貢献してきました。

本展では、千葉大学の様々な学部の中から、造形・デザイン教育を展開してきた教育学部と工学部を取り上げますが、それぞれ幾多の変遷を経ながら、千葉を舞台にそれぞれの立場でその役割を果たしてきました。

教育学部 —教員養成を目的とした造形教育者の系譜—

教育学部の前身は、明治7年に開校した千葉師範学校までさかのぼります。師範学校は、各道府県に設置された小学校教員養成のための学校で、美術に関する教育は、図画・手工(工作)・習字といった教科を通じて行われていました。何回かの改称改組を経て、戦後の学制改革により、昭和25年に教育学部が発足して現在に至っています。

本展では、千葉県内での系譜を、明治期の松井昇や小代為重、松室重剛、大正～昭和初期の上甲二郎や長谷川規矩進、長澤喜久治、戦後千葉の美術教育界形成に尽力した森桂一らの絵画作品や著作、日本の手工教育の基礎を築いた岡山秀吉の著作などを通じて紹介します。

また、日本の書道教育の基礎を築いた香川松石をはじめ板倉潭石など歴代の教官たち、戦後書道教育の充実を支えた浅見喜舟や高澤南総など、書写書道教育者も併せて紹介します。



小代為重「シンガポール」 明治33年 佐賀県立美術館蔵

工学部 —デザイン教育の先駆から現代デザイン教育へ—

工学部の前身は、大正10年に設立された東京高等工芸学校です。日本における本格的なデザイン学校の先駆として、東京・芝浦にその産声を上げましたが、昭和20年に空襲を受け、終戦後松戸市に移転、さらに昭和39年に千葉市に移転し、現在に至っています。

東京高等工芸学校については、松戸市教育委員会が平成8年から3回にわたって開催した展覧会や、近年増えてきた日本近代デザイン史に関する展覧会などを通じて、広く知られるようになりました。

本展では、東京高等工芸学校の松岡寿、刑部人、和田香苗らの絵画作品、宮下孝雄、鹿島英二らの図案、木檜恕一、森谷延雄らの家具から始まり、戦後は意匠系と建築系の指導者を紹介しますが、基礎造形、グラフィック、工業デザイン、意匠デザインや建築、人間工学など、その幅広さは、まさにデザイン教育の裾野の広さを体現したものとなっています。



豊田勝秋「広間への花挿」 昭和7年 佐賀県立美術館蔵

様々な作品や資料を全国各地から一堂に集め、千葉大学教育学部と工学部をめぐる多種多様な人々の存在とその業績を紹介するわけですが、いわゆる名画名品を中心とした展覧会ではありません。絵画、彫刻、工芸、書、家具、ポスター、建築図面、著作など様々な作品や資料が並ぶ、これまでの県立美術館の展覧会とは、一風違ったものとなるでしょう。

明治・大正・昭和・平成と、千葉県という地域で連綿と展開されてきた造形・デザイン教育の歩みを、その指導者像を通じて振り返り、次代の造形・デザイン教育への足がかりとなることを期待して開催するものです。

ぜひ多くの県民の方に御観覧いただき、房総美術史の一側面を理解する一助としていただければ幸いです。

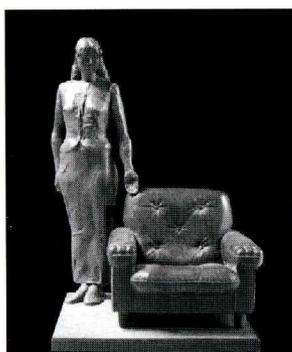
また、展覧会の関連事業として、トークショーや講演会、ワークショップも開催します。詳しくは、美術館までお問い合わせください。

会 期：11月22日(土)～平成16年1月25日(日)
休館日：毎週月曜日、年末年始(12月26日～1月4日)
入場無料

企画展

「触れる美術展」

11/18(火)～11/30(日)



上野 弘道「残されたもの」

今回で「触れる美術展」は4回目をむかえ、彫刻家の作品と千葉県立千葉盲学校の児童生徒の作品、約40点を一堂に展示します。「つるつる・ざらざら・ほこほこ・とげとげ・・・。」と鑑賞した子どもたちはそんな表現で作品と向き合っています。石・ブロンズ・木・テラコッタ・エポキシ樹脂・粘土等の各種素材によって作

られた具象的あるいは抽象的な形態の作品により、さまざまな表現や感触を楽しむことができます。

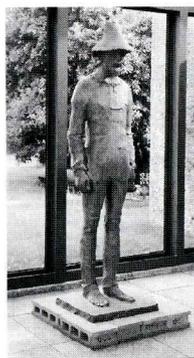
触覚を通してだからこそ得ることができる感覚を再認識、または発見し、作品の内面性、躍動感、創造の在り方を感じていただければ幸いです。

収蔵作品による企画展

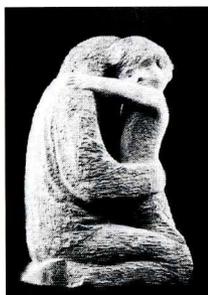
「彫刻」

12/16(火)～4/11(日)

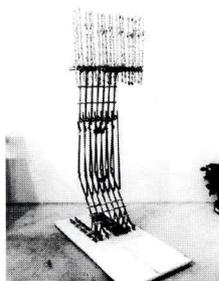
彫刻には木(杉・樟^{くす}・ラワンなど)、石(御影石・大理石など)、金属(ブロンズ・ステンレス・アルミニウム・真鍮など)、ポリエステル樹脂などさまざまな素材があり、また抽象・具象と表現方法も多様です。素材を活かしながら作家のイメージを広げ制作された作品からはその本質を見ることができます。本展ではさまざまな形態や素材による彫刻作品を展示します。



郡司 和男
「詩人の肖像」
ブロンズ

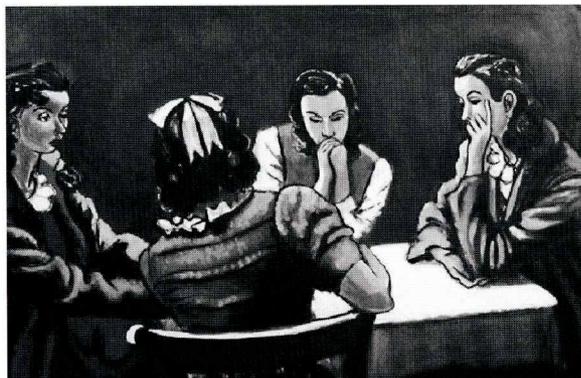


長谷川 昂
「朝」
木(樟)



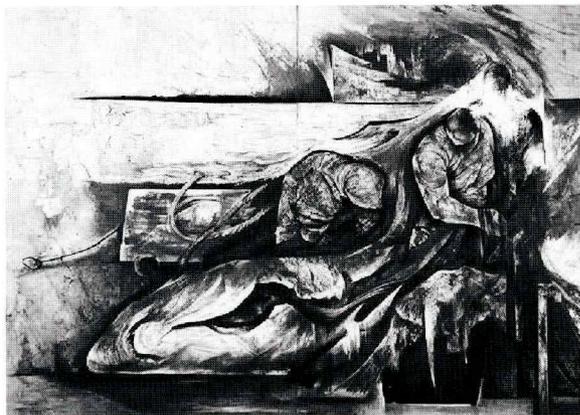
原 武典
「水の中の太陽('82)」
真鍮

の衣装や動きなどに焦点を当てて展示をします。その中で作品から物語を想像できる中西利雄(1900～1948)の「四人の女」と作品の雰囲気から動きが伝わってくる渡辺学(1916～2000)の「夜明け」について紹介します。



中西 利雄「四人の女」

「絵画の力強さ」を水彩画に追求し続けた中西は、水彩画の近代的革新者のひとりです。深い色合いやモデルの背中や一点に集中しているモデルたちの視線に見ているわたしたちまでその世界にひきこまれていきそうです。中西はこの作品について「丁度当時ベートーベンのピアノ・ソナタを集めるのに熱中して居て、モデルが休んでいる時は、始終ピアノ・ソナタのレコードをかけて居たことを思い出す。そんなことを考えるとモデルの姿勢がシュナーベルのピアノに感動して聴き入っているように見えるのがおかしい。」と語っています。



渡辺 学「夜明け」

銚子市に生まれた渡辺は、主にそこに生きる漁師の家族の姿を描いています。潮の香りや強い日差しを浴びながらたくましく生きる人々の生きざまが厚塗りのマチエールや幻想的な表現から伝わってきます。抑えられた色や大胆な構図からくる強靱でダイナミックな動きから厳しい自然の中で黙々と生活する人々の魂を感じとることができます。

他にも人の姿や動きから情景が浮かぶ作品を展示しますのでぜひご鑑賞ください。

(学芸課 濱田 純子)

ひと すがた どう 「人・姿・動」

1/31(土)～3/21(日)

人物を題材とした作品は、作者の関心や心情が表現されています。また表現方法も多様で見ものの想像力を豊かにしてくれます。そこで、「人・姿・動」では、人物

第27回千葉県移動美術館展 12/9(火)～21(日)

今回の移動美術館は、白井市郷土資料館を会場に12日間にわたって開催します。同館では7年ぶり2度目の開催となります。

開催地の白井は、昭和54年北総開発鉄道が開通し、沿線の千葉ニュータウン地区への入居が始まると、人口は一気に増加し、平成13年4月に「白井市」に発展した都市化の進む地域です。

ところが、江戸時代まで歴史を遡ると千葉ニュータウン地区には徳川幕府の軍馬生産の牧場が置かれていたことが知られ、牧場周囲の林からは当時の江戸住民の使う薪炭を生産しました。

このような歴史的背景を持つ地域であることを考慮して、収蔵作品の中から自然や動物、そして牧歌的雰囲気のある作品を中心に展示することといたしました。以下に各部門別の代表的な作品を紹介します。

洋画では、バルビゾン派のコレクションから羊や鹿などの身近な動物を描写したギュスターブ・クールベ作「雪の中の小鹿」、シャルル・エミール・ジャック作「森の中」、などを、日本画では、富取風堂作「仔馬」、若木山作「早春」など自然の豊かさを表現した作品を選びました。



クールベ「雪の中の小鹿」

彫刻では、安西順一作「秋晴」、堀川恭作「丸いフォルム」など木のぬくもりの感じられる作品を、工芸では、鍍金作品から香取秀真作「鳩香炉」、津田信夫作「馬」など動物を題材とした作品を展示します。

版画では、星襄一の樹シリーズから「枯草の風景(B)」、「赤い地平線」など、大地に根ざした樹木の力強さの表現を紹介します。

書道作品では、白井市出身の小川瓦木の作品を3点出品します。前衛書の迫力に触れていただく良い機会となるでしょう。

このほか、千葉県美術展覧会(県展)で県展賞に入賞した作品も展示しますので、皆様のご来場をお待ち致しております。

ミュージアムコンサート

「心に残る世界の名曲・日本の名曲130年」と題して千葉県立美術館第7展示室にてミュージアムコンサートを開催します。

- 日時 11月22日(土) 14:00～15:30
- 参加 自由(入場無料)
- 演奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

美術講演会

千葉県立美術館講堂において美術講演会を開催します。

ご希望の方は「講演会希望」、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記して往復はがきにてお申込みください。聴講費は無料です。(12月13日(土)消印有効)

- 日時 12月21日(日) 14:00～15:30
- 定員 200名
- 講師 千葉大学教育学部長 藤澤 英昭氏
- 演題 「21世紀における造形・デザイン教育」

一日学芸員体験

平成14年度より施行されている新学習指導要領の趣旨に鑑み、本館と学校教育との連携を密にし、両者が一体となって児童・生徒が、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成するために学校からの申込みにより一日学芸員体験を実施しています。

8月23日、美術部員15名で一日学芸員体験学習に参加させて頂きました。美術館に行く機会の少ない生徒がほとんどでしたので、多くの素晴らしい作品を鑑賞でき、また普段入れない美術館の裏側まで見せて頂き、貴重な経験となりました。今まで美術館を敷居の高いものと感じていた生徒も多かったようですが、今回の体験で美術館とそこで働く方々を身近に感じたようです。また、こうした企画に参加させていただく機会を、生徒一同楽しみにしています。

(八街中央中学校教諭 玉造明男)

「壺と掛け軸の体験が心に残りました。優しく、おもしろく教えてもらったので、とても楽しくすぐに覚えられました。美術館から帰り、家で掛け軸を探すと、父や母が書いた習字の掛け軸と、桐の箱の中に薄い紙で包まれたアサガオの掛け軸がありました。」



「絵の説明をしてくださった方が、優しくおもしろく、とても楽しめました。不思議な絵の構造がわかった時、その作品がもっと好きになりました。」

(生徒の感想より)

学校巡回展について

世界の優れた美術品を鑑賞できる機会を提供するとともに、小・中学生の情操のかん養に資することを目的とし、「美術館がやってきた」をテーマに、名画の複製を巡回展示しています。

今年度は、印旛地方出張所管内の小・中学校を対象に、小学校2校(栄町立安食小学校、富里市立洗心小学校)、中学校1校(佐倉市立佐倉中学校)を開催校として実施しました。また、巡回展の開催中にギャラリートークを実施しました。

本校は富里市の南部に位置し、成田を飛び立ったジャンボ機が、校舎の遥か上空を飛行しています。全校児童74名の学校に学校巡回展がやってきて、小さな学校も活気に溢れ大賑わいです。専門家の方々が搬入搬出、飾り付けを行ってくださり体育館が、みごとギャラリーに変身しました。ミレーやコローなどのバルビゾン派からモネやセザンヌ、ゴッホなどの後期印象派に至る10点の名画が並びました。展示された作品を一番に見させていただき、素晴らしい雰囲気を感じました。

児童も意欲的な鑑賞態度で「細かく描いていて色がきれい。」「絵の中から馬が出てきそう。」「影が本物みたい。」「光がたくさん当たっているようで明るい。」などの素直な感想が聞かれました。作家の個性と多様な表現に触れることができたこの学校巡回展は、教科書や美術誌による鑑賞が多かった児童にとって、目から鱗が剥がれ落ちるようなよい経験となりました。

美術館の学芸員の訪問によって、ギャラリートークも行われましたが、本校児童にとっては初めてのことで心配でした。しかし、学芸員の方の人柄とよく研究された内容や卓越した進め方により、堅苦しくならず楽しく名画に浸る事ができました。名画の中のどの部分かを当てるシルエットクイズは大好評でしたし、学芸員さん自作の油絵も見せていただき感激でした。時間が短く感じられ充実した時を過ごすことができました。



学校の近くに美術館もなく足を運ぶ機会も少ないので、この度の学校巡回展は、豊かな情操教育を児童育成の一つの柱としているわが校にとって、好機であり幸いな催し物となりました。このような素晴らしい企画を推進されている県立美術館に心より感謝申し上げます。

(富里市立洗心小学校長 天沼理恵子)

八街高等学校「美術館講座」について

本年度4月から県立八街高等学校で行っている、本館職員による「美術館講座」の成果を発表するため、当該高校生徒が選定した本館収蔵作品による展覧会が行われます。

- ① 展覧会名 「K・MKS展 .COM
—高校生が 見て 感じた 作品—」

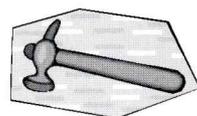
- ② 期 日 1月16日(金)～1月18日(日)
③ 内 容 当該高校生徒が本館収蔵作品から選定した作品、浅井忠、ミレー、ドービニー等を各自の研究成果と共に展示します。
④ その他 1月17日(土)には、当該高校生によるギャラリートークが行われます。

実技講座のご案内

経験者、未経験者を問わず、誰でも楽しく参加できる講座です。ご希望の方は希望講座名、住所、氏名、電話番号を記入して往復はがきにてお申込みください。

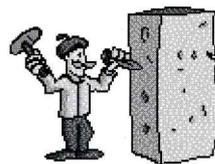
【金工講座】銅版レリーフと彫金の制作を通して、各種工具の取扱い方や金工の基本的な技法を修得します。

- 〈日程〉1/22.23.24.27.28.29.30.31 2/3.4.5の全10日間
〈活動時間〉12:30～16:30
〈定員〉20人を予定
〈講師〉小林 正利氏
〈費用〉14,000円の予定
〈申込締切〉1月8日



【篆刻講座】手軽にできる石材彫刻を通して、篆刻の魅力や堪能し、篆刻の基本的な技法や用具の取り扱い方を修得します。

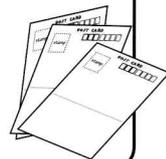
- 〈日程〉2/18.19.21.24.25.26の全6日間
〈活動時間〉12:30～16:30
〈定員〉20人を予定
〈講師〉細谷 恵志氏
〈費用〉10,000円の予定
〈申込締切〉2月5日



千葉県立美術館オリジナルポストカード2003

ミュージアムショップにて限定販売中!
『千葉県の再発見シリーズ』1枚100円

- | | |
|---------|-----------|
| 秋元 恒 | 「銚子南外川漁港」 |
| 高橋 規矩治郎 | 「大貫海岸」 |
| 五十嵐 光昭 | 「大賀ハス」 |
| 西嶋 俊親 | 「犬吠埼」 |
| 宮澤 一雅 | 「千葉公園」 |



交通

JR京葉線・千葉都市モノレール 「千葉みなと駅」下車徒歩8分
JR総武線 「千葉駅」下車東口12番バスのりばから「千葉ポートタワー」行「県立美術館・中央郵便局」下車徒歩1分

〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.C.から約20分
〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.C.から約25分